

医学文化館に寄託されている、吳秀三先生

遺品目録

岡田靖雄

ここにかかげるのは、吳忠士氏（秀三先生の一男故茂一氏嗣子）および吳章二氏（秀三先生二男）より、一九八二年はじめまでに医学文化館に寄託されているものの目録である。

はじめの番号は、医学文化館の整理番号である。品名のうちに①とあるのは吳忠士氏寄託のもの、おなじく②とあるのは吳章二氏寄託のものである。「」内は岡田による解説である。

C 140 「在職二十五年祝賀記念帳」、三冊 ②

〔吳先生の在職二十五年記念祝賀会は一九二二年一月四日に上野精養軒でおこなわれた。この記念帳は、そのお祝いつくられたものであるが、先生に贈呈されたのは、この日よりあとであつたかもしれない。その内容は、祝賀に先生によせられた詩・文・和歌・俳句などの書と、おもに狂・痴・愚を主題とする絵（巫女、オフェリア、桜川、隅田川、王藻前、道上寺、葛の葉、橋姫、斑女、志道軒など）とをはりまぜている。おもな筆者・画家の名をあげると、第一冊で、杉浦重剛、窪田空穂、齋藤茂吉「ものぐるひはかなしきかなとおもふときさびしきところきみにこそよれすくひたまはな」、山根正次、高島平三郎、

巖谷小波、芳賀矢一、尾上柴舟、武島羽衣、永井荷風、後藤新平、北澤樂天、中村不折、平福百穂、安田軼彦、鏑木清方、坂正臣、一洋、耕花、玉葉、第二冊で、石黒忠愼、島木赤彦、釋迢空、山崎正董、山極勝三郎、大澤謙二、遠山椿吉、大町桂月、岡村龍彦、大槻如電、忠信、春水、忠太、樂天、笛歌、第三冊で、氏家信、赤澤氏恭、賀古鶴所、安部路人。

これらの詩・文・和歌・俳句のうち半分ほどは、一九二二年一〇月一〇日発行の『吳教授莅職二十五記念文集』、一九二八年二月一三日発行の『吳教授莅職二十五年記念文集』第貳輯・第參輯・第四輯中の第四部（第四輯）にのっている。〕

C 141 吳秀三独逸留学送別記念帳「長風万里」、一冊 ②

〔書画集で、おもな筆者は佐野常民、日高誠實、陸羯南、森槐南、蒲生重章、秋月新、三好學、三浦千春、植松有經、税所篤子、藤代禎輔、河内全節、高橋二郎、正岡子規「瓜なすび命があらば三年目」、内藤鳴雪、和田萬吉、高津敏三郎、坂正臣、平出鏗二郎。画家では狩野友信、熊谷直彦、熊谷寛敏、和亭のものなどがはつてある。書の内容は前記の『吳教授莅職二十五年記念文集』に付録されている。〕

C 142 吳秀三ブロンズ胸像 ①

〔高さ76センチメートルで、裏に「昭和己卯 方堂作」とある。医学文化館では、この胸像は、同級生であつた近藤次繁の胸像とならべ陳列されている。おなじものは、東京都立松沢病院の本館前庭および東京大学医学部精神医学教室にもある。『精神神経学雑誌』第四三卷第一二号の記事によれば、この胸

像は呉秀三先生記念像建設会が三部会会友石川確治に依頼して二基作製したもので、一つを松沢病院に、一つを精神医学教室においた、松沢病院における胸像除幕式は一九三九年十一月九日におこなわれたとある。方堂とは石川確治の号であろう。建設会において作製したのが二基とすると、これはおなじ型から呉茂一氏がつくらせたか。また、広島県医師会はこの胸像を複製して県医師会館ロビーにかざり、一九七九年一月一日にその除幕式をおこなった。』

C 143 呉秀三レリーフ ①

〔三九センチメートル×三一センチメートル、裏に「皇紀2600年秋 確治」とある。胸像をレリーフ化したものである。う。〕

C 144 「諸家筆蹟肖像集」、一冊 ①

〔昔の医家の筆蹟・肖像の写真集。〕

C 145 呉秀三写真、三枚 ①

〔“Kune Shuzo”署名いりの還暦写真ほか。〕

C 146 呉秀三在職十年祝賀アルバム、一冊 ①

〔呉先生の教授在職一〇年祝賀会は一九二一年九月三日に上野精養軒でおこなわれた。門人の一人ずつの写真をはり、わきにそれぞれが署名しているこのアルバムは、当日先生に贈呈されたのだろう。ここにでているおもな人は、今村新吉、石川貞吉、石田昇、井村忠介、池田隆徳、橋健行、大成潔、小田平義、和田豊種、門脇真枝、榎田十二郎、加藤豊次郎、中村讓、氏家信、氏原佐蔵、黒澤良臣、山田鐵蔵、松原三郎、松本高三

郎、舟岡英之助、小峰茂之、荒木蒼太郎、尼子四郎、榎保三郎、齋藤紀一、齋藤玉男、齋藤茂吉、北林貞道、木村男也、三宅鏡一、下田光造、森田正馬、千日亮、杉江董、水津信治（いは順）。〕

C 147 呉秀三先生生誕百年記念晩餐会録音テープ ①

C 148 勲一等瑞宝章 ①

C 149 寄稿誌及び別刷り、六冊 ①

〔『医学中央雑誌』第七号（一九〇三年）所載「幼年麻痺狂ノ好症例」、「橋本宗吉と我竹原」（上、中）をのせた『飽微』第五八号、第五九号、『中外医事新報』所載「我邦漢方医及び蘭方医の最初の解剖に関する読史余談」（校本）、“Ph. Fr. v. Siebold und sein Einfluss auf die japanische Zivilisation der neueren Zeit”、「シーボルトと万有科学上の日本」をのせる『科学知識』第六卷第一〇号（一九二六年）。〕

C 150 自筆原稿など、六点 ①

〔タイプ稿“Siebold und sein Einfluss...”（C 149）“Ph. Fr. v. Siebold und sein Einfluss...”（ごまな）”、「シーボルトと彼の日本文化への影響」（前記論文のはじめの日本語稿）、三好學「花の寿命と其の生命」（呉先生でない手による写）およびオランダ語・ポルトガル語に関する原稿の一部分（呉先生でない手による）、小川劍三郎「三井氏眼科横針術秘訣ニツキ意見」（表紙だけ呉先生の字）、「シーボルトと万有科学上の日本」（C 149のもの原稿）、「ケンペル日本誌解題」および関連原稿（訳稿の一部分か）。〕

C 151 吳秀三あて書翰綴他 ①

〔吳先生自筆のドイツ大使ゾルフ閣下あて書簡(シーボルト伝賞讃への礼状、昭和二年一月三日づけ、書きつぶしか)、トラウツあてドイツ語訳への礼状(吳先生でない手による)、シーボルト閣連調査資料一括(先生の問い合わせへの返事)、白井光太郎「曾根春伝」、小川劍三郎「日本に於ける最大なる眼科治療所」、武藤長平「鎮西侯伯の蘭癖」、村上直次郎「我が国に於ける西洋語学の研究」、和田英松「物の氣に於て」(吳先生による朱筆入り)、ほか不明の原稿、——これらのうち白井より和田までのものは『吳教授莅職二十五年記念文集』第三部所載のもの原稿であろう。〕

C 152 竹田宮恒久王殿下御下賜の置き時計(大正六年) ①

C 153 吳秀三海外旅券(大正九年) ①

C 154 吳秀三自筆略伝 ①

〔『吳秀三小伝』にのる「年譜」のもと。〕

C 155 ドイツ大使より吳秀三夫人あて書翰ほか ①

〔一九三二年四月二一日づけ夫人あての、ドイツ赤十字名譽章をおくる案内のドイツ大使書翰、トラウツ弔文、嗣子吳茂一挨拶状。〕

C 156 吳秀三和蘭皇室より勳章受章の写真ほか ①

〔表題写真のほか土肥慶蔵による書評「江戸参府紀行」(東京日日新聞、昭和三年四月九日)。〕

C 157 シーボルトのメダル ②

〔一八九六年、シーボルトの生誕一〇〇年にさいして。〕

C 158 吳秀三写真ほか、計一枚 ②

〔土肥慶蔵、吳先生留学中、日高秩父、吳・土肥・藤浪鑑、藤浪・同夫人、ベルツ、留学中同僚であったオーストリー人・ドイツ人計四名。〕

C 159 吳秀三追悼雜誌ほか ②

〔昭和七年四月二〇日発行「神経学雜誌」第三四卷第五号、杉田直樹による吳先生の略歴(『神経学雜誌』別刷りか)、『芸備医事』第四二八号(一九三二年)、吳先生の「吳家のことに就き」をのせる『芸備医事』第三九八号(一九二九年)。〕

C 160 箕作阮甫五十年祭写真 ②

〔一九二二年六月一日における一族の写真、坪井誠太郎氏蔵複製のもの。〕

C 161 吳秀三外遊記念記帳集、一冊 ②

〔主として先生留學時にその師、同僚から署名してもらった署名用紙をはったもの。オーベルштаイネル、クラフト・エービング、ワグネル・フォン・ヤウレク、フレクシヒ、ニスル、クレペリン、レジ、シピールマイエル、ビルシヨフスキー、ほか。〕

C 164 「芝蘭書牘集」(卷子装箱入り)、二卷 ②

〔宇田川榕庵、宇田川玄真(榛齋)、桂川甫策、戸塚静海、伊藤圭介、杉田成卿、坪井誠軒(信道)、土生玄碩、川本幸兵、佐藤泰然、湊長安、小關三英、緒方洪庵、杉田玄端などの手紙で、箕作阮甫あてのものもいくつか、マイクロフィルムも。〕

C 165 箕作阮甫製胎兒骨格、箱入り ②

〔箱に「樂志居珍藏」とあり、吳先生の手で「紫川先生手ツカ

ラ作ラレシモノ」とある。]

C 166 乾し豆、箱入り ①

〔渡来の外国人より入手したむね、箕作阮甫筆の説明書きがういている。〕

A 215 鎌田環齋『広益正字通』一冊 ①

〔木版本。〕

A 216 土肥慶藏『頸軒詩稿』三冊 ①

A 217 小澤敏夫訳註『シーボルトの最終日本紀行』一冊 ①

〔呉先生による序文あり。〕

A 218 富士川游『日本医学史』(初版)一冊 ①

A 219 “Reports of the Medical Exhibition—VI Congress of the Far Eastern Association of Tropical Medicine (1925)”, 1927. 一冊 ①

〔『日本医学歴史資料目録(第六回極東熱帯医学会附帯展覧会)』のイギリス語訳本で、その大半が、本文五八ページおよび写真ページ多数からなる S. Kure: “Explanatory List of Articles Exhibited”〕

A 220 清宮秀堅撰・逢谷箕作先生閱『新撰年表』一冊 ①

〔木版、呉黄石先生手訳本で、黄石先生筆の貼り紙がついてい

A 221 箕作阮甫「水蒸船説略」(卷二、三)一冊 ①

〔筆写本。〕

A 222 高橋作左衛門「丙戌紀聞」ほか、一冊 ①

〔表題のほかに青地林宗訳「別勒密律安設戦記」、小関三英訳

「大韃而韃誌——万国輿地誌亜細亞誌」、吉雄權之助「天馬異聞」が、「樂志居蔵」の用紙に筆写されていて、諸所に箕作阮甫の朱がはいっている。「鍛冶橋第箕作氏記」の印あり。〕

A 223 箕作阮甫「衣米針印刷伝信通標略解」、一冊 ①

〔阮甫先生自筆本。〕

A 224 箕作紫川「八紘通誌(卷首)・磁石両極説」、一冊 ①

〔「磁石両極説」は「大地マグネチスムス」とも本文はじめに。〕

A 225 箕作阮甫「和蘭文典後編成句論」、一冊 ①

〔一八〇〇年刊のヘン德里キ・ラフケッスの著書の訳で、阮甫先生自筆本、「呉氏文庫」の印あり。〕

A 226 〔C21—225は別にマイクロフィルムあり。〕

A 227 呉秀三「所謂シーボルト事件」、一冊 ②

〔「史学雜誌」に四回にわたり連載されたものの別刷りを製本したもの。〕

A 228 富士川游・呉秀三・三宅鏡一「教育病理学」、一冊 ②

A 229 富士川游・呉秀三選集校定「東洞全集」、一冊 ②

A 230 呉秀三「華岡青洲先生及其外科」、一冊 ②

〔背に「校」とあり先生の校正本だが、加朱されているところはわずか。〕

A 231 呉秀三「洋学の発展と明治維新」、一冊 ②

A 232 呉秀三「東京帝国大学史学会編『明治維新史研究』」にのせられた論文

の別刷りで、呉先生の校正本。〕

- A 232 吳博士伝記編纂会編『吳秀三小伝』、一冊 ②
- A 233 吳秀三編『箕作阮甫先生詩文』、一冊 ②
- A 234 吳秀三『吳黄石先生小伝』、一冊 ②
- A 235 大槻文彦『箕作麟祥君伝』、一冊 ②
- A 236 箕作秋坪「黙的亜録義」、一冊 ②
 「箕作秋坪手稿、『菊池大麓図書之記』の印あり。」
- A 237 箕作秋坪「寿無敵傑児」、一冊 ②
 「箕作秋坪手稿、オランダ語、『菊池大麓図書之記』の印あり。」
- A 238 治郎丸憲三『箕作秋坪とその周辺』、一冊 ②
- A 239 河喜多真彦『近世三十六家集略伝』(上・下)、二冊 ②
 「嘉永六年、木版本。」
- A 240 『唐詩選』(一・二、三・五、六・七)、三冊 ②
 「慶応三年、木版本。」
- A 241 青山子『漢文類別』(上・下)、二冊 ②
 「明治三九年、木版本。」
- A 242 「南冥詩集」、一冊 ②
 「筆写本。」
- A 243 吳秀三自筆雜記、四冊 ②
 「吳家由来より明治二四年五月二一日にいたる先生の日乗をしるす仮題「自紀資料」の一、小石川表町までの住居変遷をしるす仮題「自紀資料」の二、明治二六年八月九月宮城県下出張時日乗、先生でない人の筆による雜記に先生の朱がはいっているもの。」
- A 244 「芸備雜記」(丁)、一冊 ②

- 「先生による書き抜き帳。」
- A 245 「郡山樓漫筆」、一冊 ②
 「先生による、主として精神病関係古文獻の書き抜き。」
- A 246 『太平広記』、三冊 ②
 「木版本、二七六一二八五、二八六一二九六、三三〇一三二九で、夢、巫、厭鬼、幻術、祇妄、神、鬼などに関すること。」
- A 247 「訓蒙三体詩」、一冊 ②
 「父君吳黄石先生筆で、先生の教育のためかきあたらえられたもの、振り仮名つき。」
- A 248 吳秀三自筆原稿綴り、二冊 ②
 「争鹿会用紙」、一部分は「郡山樓藏梓」とある野紙に、山城・大和・河内より羽後にいたる各国の歴史を漢文でしるしているもので、墨山の朱がはいっている、「自紀資料」の一に明治一五年「二月十九日始草八十五州史」とあるものであろう。」
- A 249 青地林宗「輿地誌略」、四冊 ②
 「樂志居蔵」の野紙にかかれ、紫川先生の朱がはいっている、八冊中の巻首、巻一―三で、巻四―七は、精神科医療史研究会が古書店よりもとめて蔵している。」
- A 250 廣川猶「長崎聞見録」、一冊 ②
 「木版本。」
- A 251 箕作省吾『坤輿図識』(天、地、人)、三冊 ②
 「木版本。」
- A 252 箕作省吾『坤輿図識補』(一、二、三、四上、五下)、五冊 ②

〔木版本。〕

A 253 箕作阮甫『八紘通誌』(一一六)、六冊 ②

〔木版本。〕

A 254 吳建『吳文聰』、一冊 ②

〔昭和八年発行再版で、A 255に増補してある。〕

A 255 吳建『吳文聰』、一冊 ②

〔大正八年発行の追悼文集。〕

A 256 精神医療史研究会編『吳秀三先生——その業績』、一冊 ②

A 257 吳秀三先生生誕百年記念会編『吳秀三先生生誕百年記念会誌』、一冊 ②

②

A 258 『吳氏医聖堂叢書』、一冊 ②

A 259 吳秀三『精神病学集要』、一冊 ②

〔明治二七年発行の前編初版および翌年発行の後編初版を合本装丁しているが、破損。〕

A 260 吳秀三『精神病学集要』後編、一冊 ②

A 261 吳秀三訳注『シーボルト日本交通貿易史』、一冊 ②

A 262 羽仁五郎訳注『クルゼンシュテルン日本渡航記』、一冊 ②

A 263 吳秀三訳注『ケンプエル江戸参府紀行』(上)、一冊 ②

〔先生の校正本。〕

A 264 吳秀三訳注『ケンプエル江戸参府紀行』(下)、一冊 ②

〔先生の校正本。〕

A 265 吳秀三訳注『シーボルト江戸参府紀行』、一冊 ②

〔先生の校正本。〕

A 266 吳秀三『シーボルト先生 其生涯及功業』、一冊 ②

J 103 吳秀三写真、一枚 ②

〔吳先生と藤波鑑、実験室の先生、一九二二年七月一九日づけ Royal Medico-Psychological Association 在外名誉会員証、ハンプルク大学名誉金牌および賞状、幼時の先生、土肥慶蔵・藤浪鑑と先生、ドイツ人の同僚研究者四名と研究室で、勲一等勲記、勲三等勲記などの写真および写真複写。〕

この目録にかかげたものには、吳秀三先生没後の関係資料も一部分はいつているが、ほとんどが吳秀三先生の遺品であるので、表題は「吳秀三先生遺品目録」とした。整理番号はじめのAは図書で、CおよびJは機械器具その他とされているものである。

この調査にあたっては、寄託されているものを自由にみてよいとのお許しを吳章二氏よりいただいた。また、調査のときには、医学文化館の管理にあたっている吉岡昇さんおよび吉田正三郎さんがご協力くださった。記して深謝の意を表したい。

なお、ごく一部分のものについては、その内容をこまかく調査したが、大部分のものは本の表題や書き出し部分をみたにすぎず、内容をたしめきれてはおらず、したがってこの目録に誤りものころものとかがえる。